道徳科　五年　地域教材

三次市立酒河小学校

『響け！　酒河童太鼓』

今年も、酒河小学校の五年生が、六年生から酒河童太鼓を引き継ぐ時期がやってきました。五年生は、「いよいよ自分たちの番だ！」と、わくわくドキドキしています。もうずいぶん前から、自分が演奏したい太鼓を決めている人もいます。

酒河童太鼓が結成されたのは、平成三年十一月のことですから、今年でもう二十八年目を迎えることになります。『三次太鼓』の天野英樹さんが作曲してくださった酒河童太鼓は、これまで毎年六年生が演奏し、今日まで受け継がれてきています。この間ずっと指導してくださったのも、天野さんです。

天野さんは、酒河童太鼓について、次のように語っておられます。

童太鼓との関わりは、今から二十八年前、酒河小学校の卒業生で実業家の松岡さんから「母校に和太鼓を寄付したいのだが、作曲と指導をしてもらえませんか。」と、頼まれたことでした。私は子どもが大好きで、童心に帰れる幸せを思い、引き受けました。六年生の子どもたちに、太鼓を通して私の気持ちを伝えられることに、喜びと自信

を感じたことを覚えています。

さて、作曲するにあたって、どんなイメージで作ろうかと迷いました。私の小学校時代を思い出したり、リズムが頭に浮かんでくる度にメモをしたりしたものです。

「『調和』ということが大切だが、小学校の頃の自分に、それが感じられていただろうか。」

「グランドで、トッカンやロクムシ、エストンなどをして遊んだ思い出が、果たして今の子どもたちに理解できるのだろうか。」

など、いろいろなことを思いながら曲を完成させました。

童太鼓は、朝の授業から始まる学校生活がテーマです。イントロの鉦の音はチャイムを表しており、そこから続く太鼓の音は、授業が始まり心を引き締めて学ぶ姿です。そして、休み時間に友だちと会話を楽しんだり、グランドに出て思いっきり走り回ったりして、生き生きとして学校生活を送る子どもたちの心へと続いていきます。

エンディングは、六年生の子どもたちが最も心をひとつにして表現する場面です。学び、遊び、互いに力を合わせる・・・例えば、運動会にしても学習発表会にしても、最高学年として小学校六年間で最後の行事を、精一杯がんばっている・・・そんな様子を表現しているのです。

その年その年で子どもたちの個性は違い、学級の雰囲気が違います。子どもたちの「和」も違いますが、何度も練習し打ち覚えていくうちに、一人一人の気持ちが高まり、打ち方に

工夫が加わり、しだいに調和するようになっていきます。練習を通して仲間としてのつながりが深まり、躍動する気力をバチにこめて力強く演奏するその迫力は、心にじんと響きます。毎年その学級なりの素晴らしい演奏が完成していく様子を見ながら「今年も指導してよかった。」と思います。

そして、六年生は卒業するにあたり、五年生に確実に指導し、引き継ぎをしています。酒河小学校の伝統となった童太鼓を、一年間いろいろな場で立派に披露できたことに対する自信と達成感、そして後輩に伝えることの責任を感じながら、一生懸命教えます。自分たちが先輩から教わり、身に付けたことを、今度は五年生に優しく教えることが、奉仕の心にもつながるのではないかと思います。

また引き継ぎの時期がやってきます。私も「今度の五年生はどんな子どもたちだろう。」「今年はどんな演奏ができ上がるだろうか。」と、わくわくしながら指導を始めます。

「伝統は受け継ぐだけではなく、新たに発展させるものです。」「技だけではなく、心も受け継いでほしいと思います。」と話される天野さん。気迫が感じられる笑顔です。

【取材に協力してくださった人】『三次太鼓』代表　天野　英樹　様

【文責】深田　真規子